令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　くきのうみ　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１８日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の６年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	・言葉の特徴や使い方に関する問題への正答率が高い。 ・無回答率は、低い。 ・目的や意図に応じて書き表し方を工夫する問題などに課題が見られる。
	よくできた問題	・漢字を文の中で正しく使う問題。 ・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題

算数	全体的な 傾向や特徴など	・図形に関する問題、資料から必要な情報を選んで計算する問題への正答率が高い。 ・無回答率は、低い。 ・分数に関する問題に課題が見られる。
	よくできた問題	・図形の意味や性質について理解しているかをみる問題 ・示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかをみる問題
	努力が必要な問題	・異分母の分数の加法の計算をすることができるかをみる問題

理科	全体的な 傾向や特徴など	・「地球」を柱とする領域、「エネルギー」を柱とする領域の問題への正答率を高い。 ・無回答率は、低い。 ・「生命」を柱とする領域に課題が見られる。
	よくできた問題	・赤玉土の性質や水の蒸発について理解し、実験結果を予想して表現することができるかをみる問題 ・電流がつくる磁力についての知識が身に付いているかをみる問題
	努力が必要な問題	・顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかをみる問題

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・決まった時間での起床や就寝、朝食などの規則正しい生活習慣について、概ね良好である。 ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」や「人が困っているときは進んで助けていますか」という問いに対して、９０％以上が肯定的に回答している。 ・「読書は好きですか」という問いには、約９０％が肯定的な回答であった。一方で、一日当たりの読書時間については、約７０％が３０分以下であった。 ・５年生までの授業でPCやタブレットを使用した頻度は低かったが、ICT機器を活用する効果については、概ね９０％以上が認識している。 ・「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思いますか」など、学校での学習活動に関する質問に対して、肯定的な回答が９０％以上であった。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・日々の授業での積み重ねをより充実させながら、専科授業のよさを生かしたり、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの実現に向けた授業改善を進めていく。
・すべての教科において、積極的にタブレットなどのICT機器の有効活用を図っていく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・２学期制を利用した取組を工夫し、読書活動や体を動かす楽しさを実感できる行事を計画的に実施する。
・家庭での学習習慣定着などについては、一方的に学校からの情報発信だけでなく、保護者と双方向での連絡を密にして、子どもの成長をともに支えていく意識の向上を図る。